

学級活動(2)(3)を極める

2020.12.19(土)

札幌市特別活動研究会 学級活動(2)(3)プロジェクト

1. はじめに

学級活動(2)と(3)について研究を進める上で、学級活動(1)と比べて実践や検証の実績が少ないことから、実践を行う中で、「授業イメージを捉え直すこと」「指導のポイントについて精査すること」を目指した。

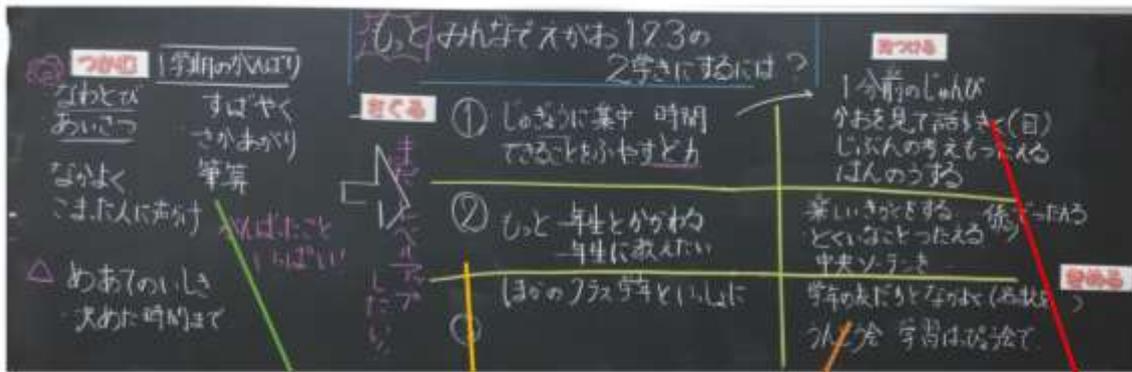
2. 実践から見てきたこと

5年 学級活動(2) 「礼儀正しいあいさつを広げよう」

<p>つかむ (5min) ○昔習ったあいさつを振り返る。</p> <p>礼儀とは何かを確認し、礼儀正しいあいさつを自信をもってできている児童が2人、中身人と意見とできていないと課題を共有した。</p>	<p>さぐる (20min) ○道徳科「あいさつ」について学んでから2週間を振り返って、礼儀と原因を交流。</p> <p>「みんなが」礼儀をいつでもどこでも意識していることの難しさ、が原因になっていることを共有した。「自分」はいつでもできていると主張する児童が特別主張を続けていた。原因が学級全体のものとして押さえられなかった。</p>	<p>見つける (10min) ○礼儀正しいあいさつを広げるための解決方法を交流。</p> <p>分離礼をすることや敬語を使うことなど、形式的な話が増え上がった。あいさつに自信のある児童は、解決方法を真剣に考えるまでに至らなかった。一部の児童で話が進み、解決方法として共有することができなかった。</p>	<p>きめる (5min) ○交流をもとに、自分が続けることを意思決定。</p> <p>みんなが気持ちよくあいさつのできることをキーワードに、「声をかけ合う」「まずは自分からあいさつゲーム」などの話題があがった。時間が足りず、決めきれなかった。</p>
--	---	---	---

3年 学級活動(2) 「すてきな言葉」

<p>つかむ (8分) ○言葉について考える時間にする。友達に言われて嬉しかった言葉、悲しかった言葉を交流し、課題の把握。</p> <p>どちらの言葉もたくさんつぶやきが出た。学級で言われたことがあるお菓子ませ、現状、学級目標に向かえる学級かどうか伺うことで、課題を共有。</p> <p>しかし、手問を掛けてでも事前にアンケートを取り、その結果を紹介する方が時間を短くできるであろう。</p>	<p>さぐる (12分) ○どんな言葉が嬉しかったり、悲しかったりしたか、について交流。</p> <p>始めから、こちらで整理して報告しながら、嬉しくなる言葉、悲しくなる言葉の順に出し合い、「ふわふわ言葉」「チタチタ言葉」と言うことを教えた。</p> <p>「ドンマイ」は、嬉しくなると嬉しくない時があるというつぶやきがあり、他の子も聞いていたの()にしたが、深入りすると、時間的に厳しそうと判断し、軽くしか扱わなかった。</p>	<p>見つける (15分) ○役割演技をして、どんな気持ちになるか、について交流。</p> <p>体育で行っていたキャッチボールの写真を(フェール)の様子、ピッチャーの前に蹴った様子、ホームランを打った様子)をTVで見せながら、チタチタ言葉を言わせてみて、言われた気持ちを選らばせた。ふわふわ言葉も同じように行い、+oの視点として、周りで聞いている人は?と切り出し、より多面的にとらえられるようにした。</p>	<p>決める (10分) ○ワークシートを配布、今の自分は...これから自分は...を意思決定。</p> <p>心の中で言ってしまうことがある。知らない間に、言っているかも知れない。できるだけ使わないようにしたい。</p> <p>友達がいいことしているところを見つけてふわふわ言葉を掛けてあげたい。</p> <p>言われても言い返さないようにして、クラスみんなにとっていい場所になりたい。</p> <p>ふわふわ言葉を言われても嫌な気持ちになる。「がんばって」「すごい」と言われても、頑張れないから。</p>
---	---	--	---



つかむ (10min)
 ○事前に1学期(6月7月)の頑張ってきた姿をスライドにして提示し、キャリアパスポートを活用して個人の振り返りを行った。キャリアパスポートの振り返りを発表し合うことで、「頑張ってきたことがいっぱいだ!」という思いをもたせた。そこで、「これで立派な2年生だね」と問い返すことで「もっとできる」と本時の課題を共有した。

さぐる (10min)
 ○「もっとしていきたいこと、レベルアップしたいことってどんなことか。」子どもたちと可能性を探った。出てきたものを学級目標の1(自分からやる)、2(やさしく)、3(友達と協力)にあわせて、板書した。低学年ということもあり、思いが先行してしまっただが、見付ける段階で、具体的な姿につなげることにした。

見つける (15min)
 ○そのためにできることはどんなことか、2学期の予定を伝えることで考え、交流した。具体的な行動目標についてみんなで考えたことで意思決定のヒントになるようにした。
 ○ここでの資料は、2学期の予定。いつどんなことがあるのか知らせた。

きめる (10min)
 ○キャリアパスポートに記入する形で、意思決定した。1学期末ということで、2学期に向けて決意を表明し、2学期スタート時に見返すようにした。
 ○2年生にとっては、時々見返すことで、思い出すことが必要。



実践から見えてきた授業づくりのポイント

- 子どもがなかなかのってこなくて、発言が少ない。
- 「次はこれを考えよう、次は…」と教師が強引に展開する時があった。
 →子どもの思いを表出し、発言をつなぐための教師の関わり
- 45分で意思決定までいかない。
- どうやって具体的な行動目標にしていくか。
- 45分の授業をしたからこそ、意思決定の内容になったか。
 →子どもの意思決定に価値ある交流場面をつくり出す教師の関わり

- ・学級活動(2)、学級活動(3)のどちらもともに一単位時間の流れは「つかむ」「さぐる」「見つける」「決める」が基本です。しかし、この4つの段階の思考過程ありきで教師が強引に授業を展開してはいけません。4つの段階を通して子どもが問題意識をもち、**子どもの思考がスムーズに流れるか**が大切です。
- ・授業を行うからこそ「決める」での意思決定が、より**具体的な姿をイメージしながら意思決定できる授業づくり**をします。
- ・他の教科における問題意識は、「つかむ」段階で生まれることが多いです。しかし、学級活動(2)では、課題の原因や解決の必要性を探る中で、学級活動(3)では、可能性を探り、なりたい自分像が浮かび上がる中で、どんどん**自分事として問題意識**をもつようになっていくと考えます。そこで、次の仮説を立て検証することとしました。

仮説

学活（２）は、経験を語るのので「さぐる」を丁寧に、学活（３）は、なりたい姿に向かうためにできることを「見つける」ことを丁寧に行うことで、より具体的な意思決定に向かう。

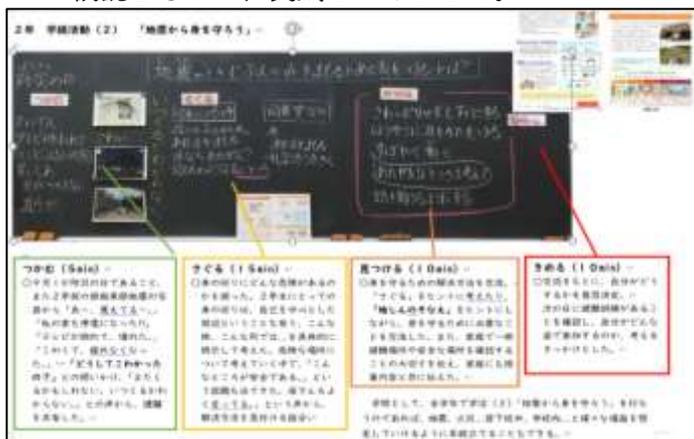
3. 学級活動（２）と学級活動（３）の違い

上記の３点と仮説を踏まえた上で、学級活動（２）と学級活動（３）の違いを示します。

	学級活動（２）	学級活動（３）
	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の生活上の課題を扱い、改善するための目標を決め、その実現に向けて取り組みます。 ～題材例～ ・気持ちのよいあいさつ ・なくそう忘れ物 ・男女仲良くしよう ・地震に備えて ・バランスの良い食事 	<ul style="list-style-type: none"> ・少し未来を見通し、なりたい自分に向けて努力することを決め、その実現に向けて取り組みます。 ～題材例～ ・〇年生になって ・〇年生に向けて ・夏休みを充実させよう ・上手な学校図書館の使い方 ・進んで取り組む自主学習
つかむ (5分程度)	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなに共通の課題は何かを共有するようにします。 	
さぐる (10～15分程度)	<ul style="list-style-type: none"> ・原因を明らかにしたり、解決の必要性を実感したりすることで、解決への意欲を高めます。 ・現在の生活上の課題を扱うため、イメージしやすいことが多いので、(3)と比べると、時間配分は多めになります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの自分の頑張りやよさを振り返ったり、インタビュー結果で願いや思いを知ったりすることで、なりたい自分像を描きます。 ・これからの将来のことを扱うため、積み重ねがないと、イメージしにくいことが多いので、(2)と比べると、時間配分は少なめになることがあります。また、なりたい自分像をつくるために児童にとって身近な人からの情報提供もありえます。

<p>見つける (15~20分程度)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・解決するための方法を <p style="text-align: center;">みんなで知恵を出し合って意見を考え合います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動が中心となりますが、専門家の情報提供によって、意見を整理したり、新たな視点をもって具体的な解決策を考えたりできるようにすることも大切です。 ・「さぐる」で原因がはっきりしてくると、解決策は、比較的浮かびやすいことが多いです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・なりたい自分に近づくためにできることを <ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動が中心となりますが、題材によって専門家のアドバイスで、より具体的な解決策を考えられるようにすることも大切です。 ・より具体的な姿をイメージして意思決定していくためには、<u>場面を限定</u>することが有効です。 ・低学年から場面を絞って考えることを積み重ねることで、高学年では多少広く扱っても具体で考えていくことができると考えます。
<p>決める (最低10分)</p>	<p style="text-align: center;">話し合ったことを参考にして、自己の努力目標や実践方法を決めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題に対する自分なりの解決策を意思決定し、実行への強い決意をもちます。 ・きれいな事で決めるのではなく、自分の見方や考え方が深まった意思決定を目指します。 ・頑張りカードに決めたことを記入します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に対する自分なりの解決策を意思決定し、実行への強い決意をもちます。 ・きれいな事で決めるのではなく、自分の見方や考え方が深まった意思決定を目指します。 ・題材によっては、キャリア・パスポートに記入します。

仮説をもとに、実践してみました。



学級活動(2)は「さぐる」に重点を、学級活動(3)は「見つける」に重点を置くと仮説を立てていましたが、必ずしもそうなるわけではありませんでした。どちらでも、子どもは、具体的なイメージが浮かぶ経験がある内容についてはよく語るため、時間を掛けて丁寧に取り組むこととなります。自ずとそこが重点化されていきます。題材や授業を行う時期に応じて、子どもがこれまで経験してきたことをよく考え、授業づくりをすることが大切だと考えます。

以上を踏まえ、「つかむ」「さぐる」「見つける」「決める」各段階におけるスムーズな子どもの思考を促すための教師の指導のポイントをまとめます。

4. 学級活動(2)と学級活動(3)の違いを踏まえた指導のポイント

つかむ

現状を把握し、共通の課題を
明らかにする教師の関わり

(2) 指導のポイント

子どもの

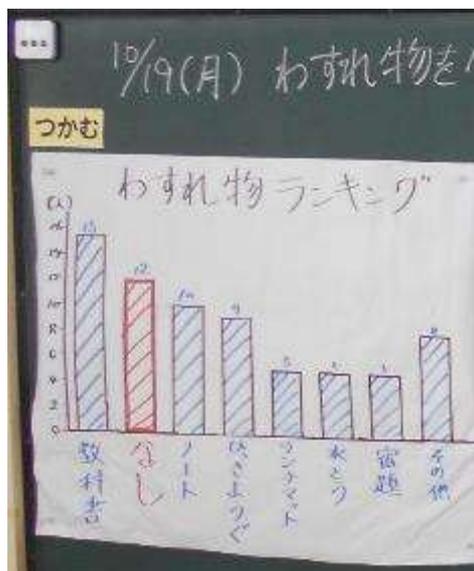
- ・後半に時間を掛けるためにも、5分程度でつかむのが理想です。
- ・自分の生活を客観的に想起させる資料を準備します。
- ・資料が事前アンケートの場合は、整理してグラフ化するなど視覚的なギャップを生む工夫をすると効果的です。
- ・本時の課題となる日常の姿を動画や写真で残しておき、見せることも資料として使えます。
- ・道徳で行った授業の板書をTVに映し、大切にしたいことを強調させることも資料にできます。
- ・想像していた自分たちの姿と現実の差に着目させ、課題を共有させることが大切です。
- ・ある程度、現状がつかめたら「このままでよいか」を問いかけます。
- ・現状がつかめたら、「学級目標に向かえる学級と言えるか」を問いかけます。

え?

そうだよ

そんな気が
していた

どうしよう



これから起こる近い将来のことを
想像できるようにする教師の関わり

の思考

(3) 指導のポイント

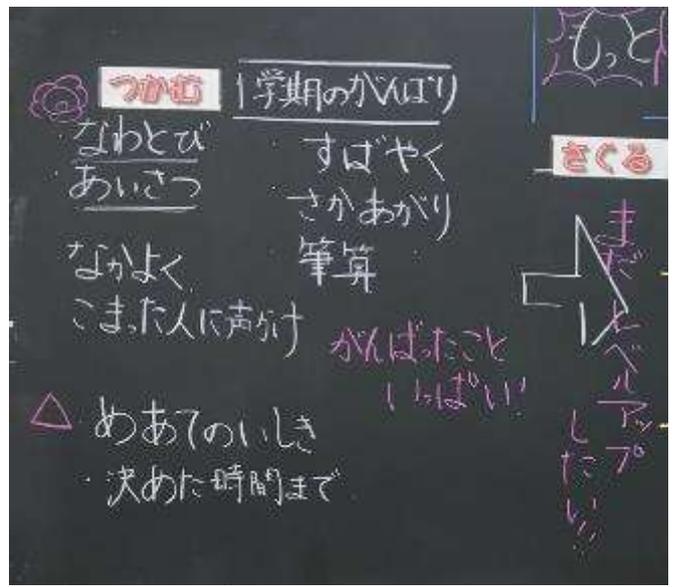
やっぱり

自分も
そうだな

このままで
はよくない



- ・後半に時間を掛けるためにも、5分程度でつかむのが理想です。
- ・よりよい自分になりたいと期待を膨らませる資料を準備します。
- ・キャリア・パスポートを使用し、事前に振り返りを行っておくことも資料にできます。
- ・キャリア・パスポートに書いた振り返りを発表し合い、これまで頑張ってきたことを確かめることが資料になります。
- ・資料として事前アンケートを使う場合は、整理して視覚的なギャップを生む工夫をすると効果的です。
- ・ある程度、現状がつかめたら「このままでよいか」を問いかけます。さらに高めたいという思いを共有できます。
- ・「もう立派な〇年生だね。」と問い返すことで、もっとできるという思いを共有できます。



さぐる

課題の原因を明らかにしたり、解決の必要性をはっきりさせたりしながら、解決への糸口をさぐる教師の関わり

(2) 指導のポイント

子どもの

- ・見付けるの意見を出しやすくするために、教師は、分類整理しながら板書します。
- ・現実に対して原因を明らかにすることを、丁寧に行うことで、どの子ども自分ごととして問題意識をもてるようにします。
- ・子ども達は、経験したことを語れるので、(3)と比べると時間がかかる可能性があります。
- ・場面を限定して考えさせることで、具体的な様子を思い浮かべることができるようになることもあります。

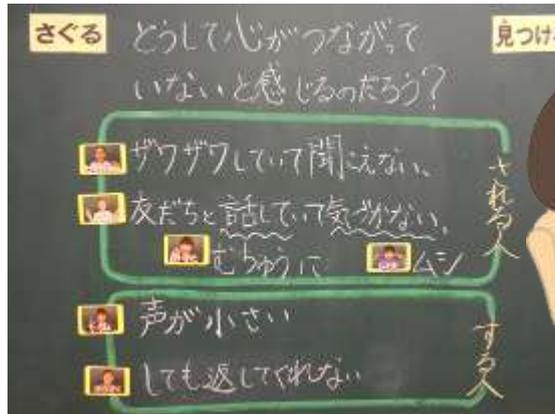
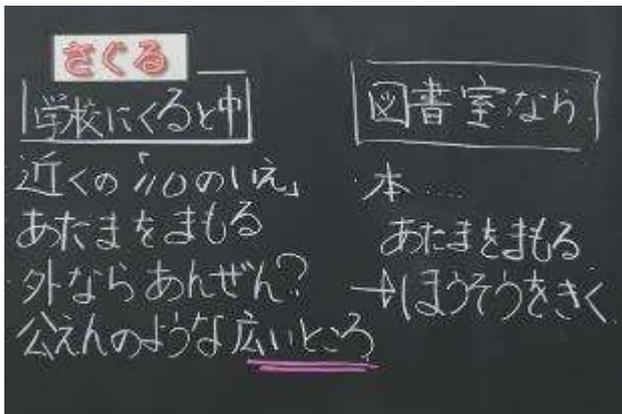
原因は何だろう

どうしてこうなっちゃうの

このままだったら

そうか、〇〇すれば

よく考えたら



なりたい自分像を明らかにしていく

教師の関わり

らの思考

(3) 指導のポイント

そんなこと
考えていたんだ

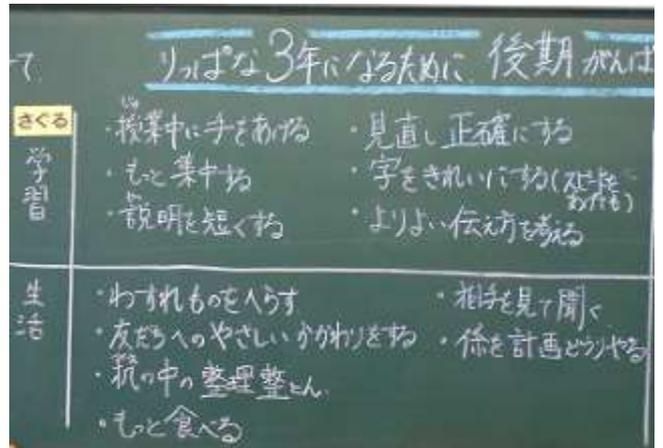
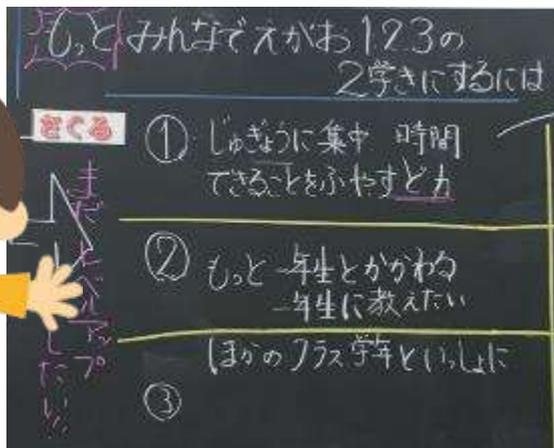
そうした
かったんだ

そうなんだ

自分
だったら

これだったら
自分も

- ・理想像を描ける人物を考え、インタビューを取っておきます。
 - ・教師は上の学年や、先生方、専門家へのインタビューをまとめた資料を提示します。
 - ・これまでの子どもの頑張りを思い出させることもあります。
 - ・イメージマップなど、思考ツールを使って一人一人が整理することができます。
 - ・(2)と比べると、教師が与えた情報を元に考えることが多いため、時間は短くなる可能性があります。
- ※理想と比べて、できてない自分に焦点が当たると(2)の展開のようになってしまう、時間がかかります。



見つける

一人一人の意思決定に向けて、
具体的な解決方法を共有するための教師の関わり

(2) 指導のポイント

子どもの

- 原因や解決の必要性を探ってきたことで、「どのように解決するとよいのか(できるのか)」を学級全体で話し合います。必要に応じて、ペアやグループ交流を通して考えることもできますが、多様な考えを認めることができるように、教師が指導することが大切です。

発言例 避難訓練では、実際に起こった時と同じように、落ち着いて放送に耳を傾け、どこにどのように逃げるのか聞くことが大切だね。

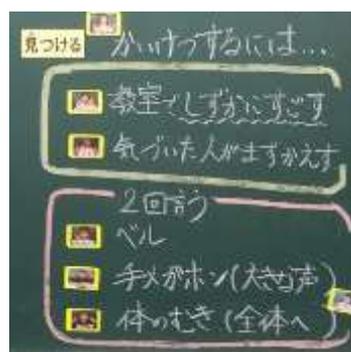
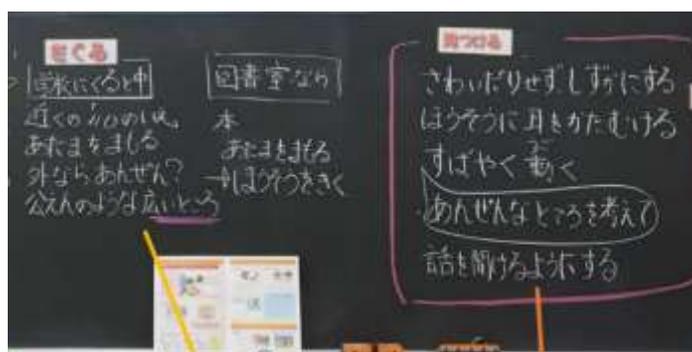
- (2) はこれまでの学校生活から見つけた課題を解決するために、それぞれの子が行動目標を意思決定していきます。解決する方法を交流し合い、友達の考えをヒントに考えを広げたり深めたりします。自分一人では思いつかなかった解決方法を知る機会にしたり自分の考えた解決方法を更に具体的なものにしていったりすることが大切です。

- 解決の一手段として、ゲストティーチャーを招いて話を聞いたり、上級生のメッセージを資料としたりすることで、子どもたちの解決方法をより確かなものにしたたり、新たな発想を加えたりすることができます。

それなら、〇〇
してみたら

もっと〇〇すると
いいのでは

ゲストティーチャーが
言っていたこと
をヒントに...



これから起こる近い将来のことを
想像できるようにする教師の関わり

思考

(3) 指導のポイント

こんなことも
できそうだな

〇〇するのは
どうかな

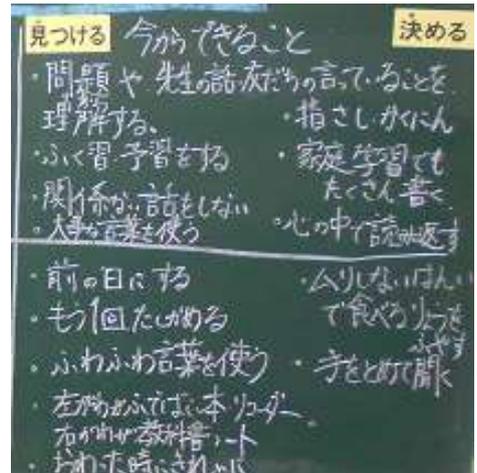
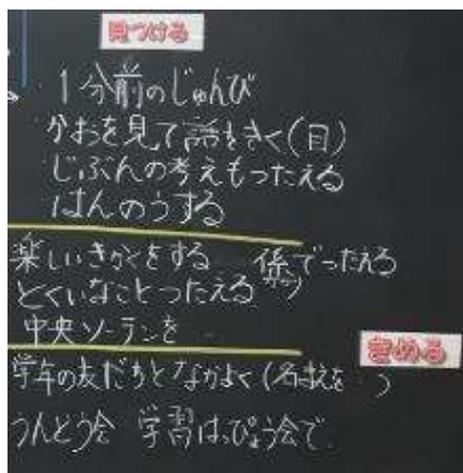
今までやって
いた〇〇
はどうかな

・「さぐる」段階で描いたぼんやりとした将来の理想像から、「自分だったら・・・」と考えて自分事にしていきます。近い将来にどんなことがあるのか、子どもたちに見通しをもたせることで、「いつ」「どんな場面で」「(自分は)どんなことができるのか」具体的に考えることが大切です。

発言例 家庭学習で何をするか、一週間の時間割に書いておくのはどうかな。そうすると、すぐに学習に取り組めるよ。

・(2)の過去の学校生活をもとに考えるのと違い、(3)では将来を見通して考えるため、具体的にイメージすることが難しい子どももいます。キャリアパスポートを活用し続けることで、自分で理想像に近づくために頑張りたいことは何か具体的に考える姿を目指すが、初期段階の指導では、場面を限定して考えたり、例示したりすることで、多様な解決方法を考えることができるように指導します。

発言例 係活動では、友達と役割を分担したり、できたところまでを確認したりすることで、計画的に進められるようにするよ。



決める

自分の課題にあった具体的な
解決策を決めるための教師の関わり

(2) 指導のポイント

子どもの

- ・「決める」段階では、それぞれの子が、自分自身の課題を見つめ直し、自分に合った解決方法や実践方法を選択し、意思決定していきます。

発言例 私は、朝のあいさつは元気よくできているけど、いつでも元気な声であいさつするために、授業の始まりや終わりも元気に気持ちを込めてあいさつする。

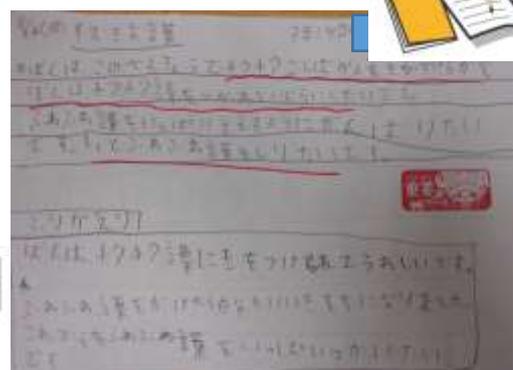
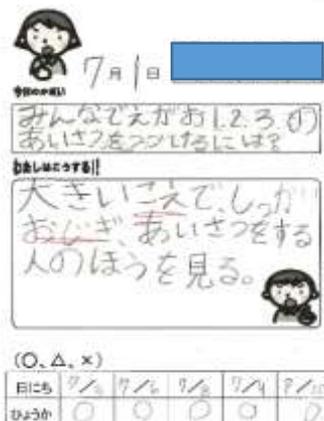
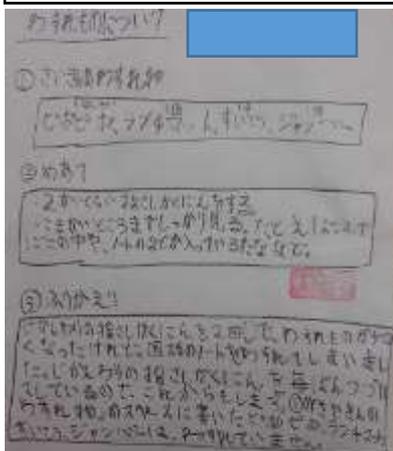
- ・45分の時間を計画的に活用し、個々がじっくりと意思決定することができる時間を確保することが必要です。目安として10分程度の時間を確保します。

- ・課題解決のために自分の取組の方法を考え、実践していくことで自己の実践力の高まりを実感させたり、それが集団の高まりに繋がったりしていることを評価として返すことで、集団の課題を自分事として考えることができるようになっていきます。

自分の課題に合っているのは…

〇〇をするとともに△△に近づくことができそうだな

〇〇さんの考えたようにしてみようかな。



自分のなりたい姿に向かって

今できることを決めるための教師の関わり

思考

(3) 指導のポイント

理想に近づくために〇〇してみたいな

〇〇することが、今の自分に必要だと思うな

・「決める」段階では、それぞれの子が、自分自身の描く理想に近づくための、自分に合った解決方法や実践方法を選択し、意思決定していきます。「〇〇することで、もっと…」と更なる意欲や自身につなげていくことで、自己肯定感を高めることに近づけていきます。

発言例 私は、掃除の時に自分の役割を終えたら教室を見渡して、手の足りないところを手伝ったり、整理整頓できるところを見付けたりして取り組むよ。

・45分の時間を計画的に活用し、個々がじっくりと意思決定することができる時間を確保することが必要です。目安として10分程度の時間を確保します。

・キャリアパスポートを活用し、「自分に合った実践方法を意思決定する」⇒「取り組む過程を振り返る」⇒を繰り返す中で、目標に向かって努力できる自分に自信をもてるように関わることで、キャリア形成や自己実現の力を高めていきます。

